

# 専修コース修了後の活動状況

農業支援センターで実習を終えた修了生は様々な場面で活躍しています。農業者として就農した方、さらなるステップアップを目指して農業研修に取り組む方、特定非営利法人(NPO 法人)を立ち上げ様々な方面から農業に取り組む方、農業ボランティアや農体験リーダーとして、子どもたちの農業体験の講師として活躍する方など、多くの修了生が農業と関わりのある活動を行っています。

## ◎修了生の活動状況 (平成31年4月1日現在)

	就農		農業研修	NPO法人	ボランティア	農業関係就職
	市内	市外				
活動人数(人)	37	21	26	40	90	12

※平成13年から平成30年に受講した450人中

## REPORT.1

## 農体験リーダー活躍中

札幌市では農学校の修了生など、一定の農業技術や知識を習得した市民の方を「農体験リーダー」として認定し、小中学校の総合的な学習の時間や町内会の活動等に派遣しています。農学校修了生のうち57名の方が農業体験の指導者として活躍しています。

(平成30年6月末現在)



## REPORT.2

# 広がる情報交換の場「さっぽろ農学校OB会」

さっぽろ農学校は農業に関する技術や知識を習得する場であると同時に、同じ志を持った仲間との出会いの場にもなっています。

専修コース修了生の情報交換と交流の場として「さっぽろ農学校OB会」が結成されています。OB会では、情報交換研修会の開催や、修了生の活動状況を報告する「OB会報誌」の発行など、受講時期をまたがったつながりを持ち、積極的な活動を続けています。



## REPORT.3

# 修了生の声

大学進学を機に北海道へとやってきました。

環境学を専攻し、自然環境の保全や生態系の仕組みなどについて学んだのち、動植物の調査・研究を行っていましたが、この時に野山に自生するイチゴやブドウ、ハスカップの容姿と美味しさに感動したのがきっかけで農業に興味を持つようになりました。

その後、本格的に農業の勉強もしたいと考え「さっぽろ農学校」に入学。果菜類や葉菜類を中心に北海道や札幌の農業について学び、卒業後は農業研修の機会にも恵まれました。

現在は札幌という立地も生かし「より多くの人にこの感動を伝えたい!共有したい!!」との思いで、体験型の観光農園を開園するに至りましたが、就農間もないヒヨッコ農家です。

作物の生育スピードに圧倒され、作業が追い付かないこともしばしば…

そんな時に手を差し伸べてくれるのが、農学校やOB会などを通じて知り合った多くの仲間達です。こうした方々の支えがあったからこそ、何とか夢を形にすることができたのだと感謝しています。

また、開園から1ヶ月ほどが過ぎましたが、既に2回3回と足を運んで下さるお客様も現れ、最近では来園された方の声を直に感じながら今後の展望について思いを馳せる日々を送っています。

さて次は何をしよう(^\_-)☆

「さっぽろ農学校(専修コース)」

さっぽろ農学校 15期生 戸田 秀之